

佐賀北高等学校全日制 学校だより 第11号
令和8(2026)年1月14日(水)綠
北【本年度の重点目標】
一人一人が かがやく佐賀北

写真は一部を除き本校ホームページでカラーで見ることができます。ぜひご覧ください！

入賞おめでとう！～2学期～

昨年12月24日(水)の2学期終業式の前、また1月8日(木)3学期始業式の前に2学期の表彰が会議室から

のリモートで行われました。たいへん大勢の生徒が対象となつたため、体育部等と文化部等に分けて表彰されました。

前号第10号ではほんの一部の紹介しかできなかつたため、今回は会議室で表彰された生徒の協力を得て賞状を手に写真撮影を行い、写真で紹介します。(全員撮影することはできませんでした。また、クラス掲示のみで紹介された生徒もたくさんいました)。

急なお願いにもかかわらず、
みなさんご協力ありがとうございました！

12月24日(水)運動部活動等の入賞者

2ページに続きます

おめでとう
ございます！



1月8日(木)
文化部活動等・運動部活動等の入賞者



おめでとう
ございます！



なお、1月8日(木)の始業式の後には、2024年夏から約1年間、アメリカ合衆国に留学した原田芽佳さん(1年1組)が体験発表を行いました。非常にわかりやすい発表で充実した体験をしてきたことが伺えました。留学経験で得た学びを今後の北高での生活でも活かしてもらえることと思います。



部活動支援金交付式

昨日12月18日(木)、北楠会・枝國会長ご臨席のもと、

部活動支援金交付式が行われました。今回はバスケットボール部男女が激励金をいただきました。枝國会長からの激励のお言葉もいただき、代表として、バスケットボール部男子 主将 品川 愛翔くん(2年4組)によるお礼の言葉が述べられました。

あたたかいご支援、本当にありがとうございます。

バスケットボール部男女:第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会(Softbankウィンターカップ2025)出場



枝國会長より激励金を受け取り、励ましのお言葉をいただきました！

左より枝國会長、品川 愛翔くん、女子主将の竹下二野さん(2年2組)、池田校長



1年 食育講習会

昨日10月29日(水)～11月20日(木)の1年生全クラスの家庭基礎の時間、「佐賀市食生活改善推進員(ヘルスマイト)」の皆様から、栄養バランスと高校生に必要な良質なたんぱく質、現代人に不足しがちな食物繊維が摂取できる献立を紹介していただき、調理の技術も含めて教えていただきました。

献立は、「鶏むね肉のシリアンライス」「なすがままゼリー」で、佐賀県のご当地グルメのアレンジと野菜不足を克服できるものでした。



野菜については、一人あたりの1日の野菜摂取目標量である350gのうち140g(約1/3以上の量)を今回の講習会で摂取できました。

「なすがままゼリー」に使用した寒天は、海藻類で淡色野菜に分類されるため、デザートでも野菜を摂取できることになり、「なす」のはずなのに、りんごや洋梨のゼリーを食べているように感じ、「なす嫌い」な人も全員喫食することができました。

また、高血圧に関係する一人当たりの「食塩」摂取量は、鶏むね肉への食塩0.2g、八方だし0.7g、マヨネーズ0.2g、合計1.1gと非常に少ない量で仕上げる料理でした。

良質なたんぱく源である鶏むね肉と野菜からの食物繊維を十分摂取できる献立で、アスリート北高生の体づくりの基となる最高のバランス食を学ぶことができました。



スケアードストレイト教室

昨年10月27日(月)、本校グラウンドにて佐賀県警察本部交通企画課主催の「スケアードストレイト教室」が実施されました。通学や日常生活において自転車の利用頻度が高い高校生に、自転車の交通安全の危険性を理解してもらうために、警察と学校が連携して行われる講演会で、プロのスタントマンによる自転車交通事故を再現したスタントを見て、なぜ交通事故が起こるのか、どうすれば交通事故を防げるのかを考えるきっかけにしてもらうのがねらいです。

「緑楠」第4号(7月中旬発行)で既にお伝えしたとおり、今年度、本校は佐賀県警察の「自転車マナーアップモデル校」に指定されていますが、今回の自転車交通安全教室はこの指定とセットで実施されたのだそうです。生徒たちは目の前で行われた迫力あるスタントをとおして、自転車の安全な利用について、それぞれが深く考えていました。

道路交通法の改正により、今年4月から自転車の交通違反に「交通反則通告制度」が導入されます。このことも念頭に置き、「自転車も車両の仲間」であるという認識を強く持ち、より一層の交通ルール遵守を図りましょう。



1・2年 校内読書会

昨年12月8日(月)に行われました。一昨年度から引き続き「ブックトーク」の形で実施されました。目的は、以下の2点です。

- ・自身が読んだ本を発表することによって、本から得た知識や理解を再構築することができる。
- ・他者から本を紹介してもらうことで、多種多様な価値観を知ることができ、自分が縁遠かった世界への足掛かりとができる。

生徒たちは事前に配布された「図書紹介計画プリント」(右)に沿って発表の準備を始めました。読書会のある前の週には、図書委員を集めて読書会運営についての指導が行われ、いよいよ読書会の日を迎きました。

まず、4~5人のグループ内で発表し、グループ代表を決定します。次に各グループ代表が教室の前に出て発表するのを聞き「図書紹介評価シート」に「内容はわかりましたか?」「面白さは伝わりましたか?」「読みたいと思いましたか?」の3点について「はい」「いいえ」「わからない」、最後にABCの3段階で評価します。

本を読むのに加えどう紹介するかを考えるのを面倒に感じる生徒も最初はいたようでしたが、会が進むにつれて徐々にどの教室も賑わってきます。普段は運動部で汗を流している男子生徒が熱く本について語るのを見て「あいつ、意外と読書好きやな」と話したり、他の人の紹介を聞いて思わず「おもしろそう…」とつぶやいたり、「えー、まず、この本のピンク色の表紙から、メッチャいいと思いませんか?」と始まった紹介にクラス一同大爆笑したり、それぞれの本の紹介をどう評価しようかと一生懸命考えたり…本や読書をテーマにして交流する姿は、みんなとても楽しそうです。発表を終えた生徒に対する賛辞の拍手も各教室から聞こえてきました。

今回の読書会をきっかけに、より読書に親しんでくれるといいですね! 本校図書館の本たちもたくさんの生徒との出会いを待っています。



図書紹介計画シート

年 級 号 名前

書名	著者	時間	日安
発表の計画 (2分間の使い方)		秒	導入 20秒
自分のこと	本との出会い		
あらすじや 内容の紹介		秒	中盤 80秒
読んだとき の気持ち			
おすすめ ポイント		秒	まとめ 20秒
さいごに			

ブックトーク 各クラスからの推薦本《一部》

※書名の前に◎がついたものは本校図書館にあります。また、ついていないものも今後入れていただけるそうです！

◎「ハリー・ポッター 賢者の石」J.K.ローリング著（静山社）／「ラブンツェルの法則」ウィザード・ノリリー著（講談社）／◎「不可能を可能にする大谷翔平120の思考」大谷翔平著（ぴあ株式会社）／◎「変な家」雨穴著（双葉社）／「二人一組になってください」木爾チレン著（双葉社）／「サンタさんのてがみ」ジョセフィン・コリンズ著（ひさかたチャイルド）／◎「世界でいちばん透き通った物語」杉井光著（新潮社）／「きこえる」道尾秀介著（講談社）／「高校球児が孝行球児になる日」年中夢球著（日本写真企画）／◎「また同じ夢を見ていた」住野よる著（双葉社） 等

2年総合的な探究の時間 ポスターセッション

昨年12月24日(水)、2学期終業式の後に行われました。2年生が1年生に対して「総合的な探究の時間」における探究活動の成果を発表することで、2年生においては本校生徒が身に付けたい力である「発信力」および「コミュニケーション能力」の育成を図り、1年生においては発表を聞き質問を通して、社会問題について視野を広げるとともに、「QTEx」による思考の深まりを図ることをねらいとするものです。2年生は61のグループに分かれ、1年生に対して適宜ポスターの説明を行い、1年生は自分が興味のあるグループの発表を聞きに行き、発表者と質疑応答をしました。

2年総合的な探究の時間 探究テーマ《一部》

佐賀市における中学生の食品ロスを解決するために必要な対策は何か・佐賀北高校の学習意欲の問題について・海苔の減少を食い止めよう！・帰ってこんね？～佐賀市の人口減少と向き合おう！～・カチガラス、どこいった！？～佐賀県におけるカチガラスの減少問題～・消えた黒い宝石～佐賀県の下水処理について～・保育士が輝けば、子どもも輝く。・山間地レベル99。佐賀の生活が想像超え。・自分だったらいつ免許返納するかにや～高齢者交通事故防止にむけて～ 等



2年1組 留学生カウェーシャーさん 北高最後の日

昨年12月12日(金)は8月末から2年1組の教室で過ごしていたスリランカからのカウェーシャー ギムハーニ ラスナヤー カさんの北高最後の日でした。この日の終礼の最後にカウェーシャーさんから2年1組の生徒にお別れの言葉が述べられました。生徒たちは北高祭等約3ヶ月の思い出を振り返りながら、カウェーシャーさんとの別れを惜しました。カウェーシャーさんは日本語を少しづつ習得し、ジェスチャーを交えながら多くの生徒や職員と交流しました。離ればなれになりましたが、今後もぜひ北高生とカウェーシャーさんとの交流が続いてほしいです！

次の6ページにカウェーシャーさんが北高のみなさん宛てに書いてくれたお手紙（日本語訳）を掲載しています！



By Kaveesha Gimhani Rathnayake From Sri Lanka AKP (2025)

『私の4ヶ月間の交換留学 心が離れたくない物語』

カウェーシャーさんが北高のみなさん
宛てに書いてくれたお手紙(日本語訳)

知らない世界へ踏み出したあの日

日本に着いた瞬間、胸の中には小さな不安と大きな夢が混ざっていました。でもその奥には、静かに広がる一つの気持ちがありました。——それは「感謝」でした。この貴重なチャンスを与えられたこと。ここに来られた運命そのものに、私は心から感謝していました。

心を抱きしめてくれた学校

佐賀北高校は、ただの学校ではありませんでした。私に「居場所」という温かさをくれた場所です。毎日の挨拶、さりげない優しさ、笑顔で名前を呼んでくれること… そのすべてが私の宝物になりました。

2年1組ー私の心が選んだ場所

2年1組に出会えたことは、私の留学で最も大きな幸運でした。日本語がうまく話せなくとも、誰も笑わず、誰も拒まず、みんなが私を自然に受け入れてくれました。「一緒にいよう」と言ってくれたその優しさに、私はどれほど救われたか分かりません。

小さな日常が大切な思い出になった

放課後の散歩、写真を撮る時間、静かな会話… 何気ない一瞬が全部、心に深く刻まれました。

ミスターDーナツと花屋巡りと、家のような友達

ミストでDーナツを食べたり、花屋を探しながら歩いたり、お土産を選んで笑い合ったり…。そんな「普通の高校生活」が、私にとっては特別でした。「一緒に行こう」と言われたたびに、胸が温かくなりました。



部活動で見つけた第2の家族

部活動では、技術だけでなく、仲間との絆を学びました。みんなの優しさが心に響き、いつも救われていました。

言語以上のものを教えてくれた日本語

日本語の勉強は大変だったけれど、みんなが笑顔で助けてくれて、その優しさが私に勇気をくれました。

そっと支えてくれた先生方

先生方の温かさは、言葉では言い表せません。不安な時、寂しい時、学校に行けば安心できました。心が揺れた日も、先生たちの存在が私を強くしてくれました。

痛みを越えて、心が成長した時間

ホストファミリーが変わる時、胸が苦しくなるほど不安でした。でも学校があったから、私は前を向けました。「支えてくれる人がいる」という事実は、私にとって何よりの力になりました。

準備できない別れ

佐賀北高校を離れる日が近づくほど、心が重くなります。スーツケースは閉じても、思い出は閉じられません。伝えたい「ありがとう」が多すぎて言葉が追いつきません。

もう一度来られるならーー迷わず佐賀へ

もしもう一度日本に来られるなら、私は迷わず佐賀に戻ります。そして必ず佐賀北高校に挨拶に行きます。この場所は私を成長させ、私を優しく包んでくれたからです。ここで会ったすべての人へ。心の底から、ありがとうございます。

2月の主な行事予定

1日(日) 合同学習会(2年) 音楽科卒業演奏会

2日(月) 45分×3限(月①②③) 大掃除

3日(火) 生徒自宅学習(終日登校禁止)

4日(水) 1・2年自宅学習

10日(火) 3年最終登校日 スクールカウンセラー来校(午後)

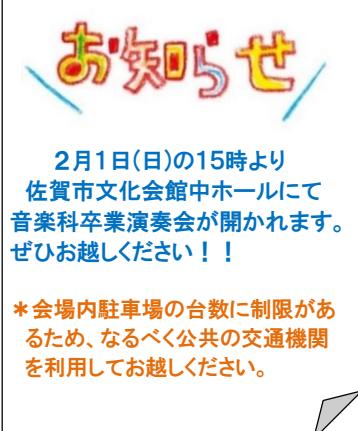
12日(木)～17日(火) 1・2年学年末考查

24日(火) スクールカウンセラー来校(午前)

25日(水)～26日(木) 国公立大学前期入試

27日(金) 卒業式予行 同窓会入会式(3年) 大掃除+40分×6限授業(金の①～⑥: 1・2年)

28日(土) 第61回卒業証書授与式



※予定は変更となることがあります。学校ホームページやスクールニュース等でご確認ください。